

1 研究主題(研究テーマ)

「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善
～「個別最適な学びと協働的な学び」の実現

2 主題設定の理由

武雄支部では、1つの授業の流れを記載する指導案を作成していたが、今年から「個別最適な学び」に向けて、単元を通して授業や評価を可視する指導案を作成することにした。研究の柱は、①生徒間の対話的な意見交流が積極的に行われているか。②生徒が主体的に授業に参加し、自分たちの意見を持ち判断することができているかどうか。③個別最適な学びの授業になっているか。とした。

3 研究経過

6月21日(水)武雄市教育研究会社会科部会

8月2日(水)研究授業指導案検討(公民的分野)

11月28日(火)提案授業、授業研究会(川登中：永松 美紗 教諭)

4 成果と課題

成果については以下のとおりである。

- ・生徒が学習課題について積極的に組んでいた。
- ・LPを活用したことにより、様々な意見を聴いて生徒の中には意見の変容が見られ、資質・能力の育成につながった。
- ・保護者や教員、級友などに意見や考えを求めることで、より多くの意見交流ができた。
- ・研究授業では、タブレット端末や電子黒板を使った意見交流の実践が行われ、生徒間の活発な意見交流が見られた。

課題については以下のとおりである。

- ・生徒は学習課題について考え取り組んでいたが、浅い学びになっていた生徒が多いと感じた。
 - ・当事者としての意識を持たせるために、生徒が切実感をもって取り組める適切な学習課題の設定や学習活動を工夫・改善を行っていく必要がある。今後これが、個別最適な学びにつながると考えた。
- 今回の授業のめあて「憲法9条をどうしていきたいか、議論の広がりを知ろう」というめあてで授業実践が行われ、生徒が意見を持ち、思考を広めたり、深めたりする活動を通して、言語活動の授業を展開することができた。今後は、改善した学習課題の例として、「選挙で憲法9条に対して、それぞれの立候補者の考えがA 現状維持、B 改憲、C 加憲どの立候補者に投票するか考えよう」などの課題設定をするとよいとした。